

特定非営利活動法人(NPO法人) (通称: AAC21)

# 21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-701  
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213  
E-mail: info@aac21.net

【関西支部】〒665-0061 兵庫県宝塚市仁川北3-10-27 中野方

【カンボジア事務所】 Phom Thmey, Sangkat Rokathom, Krong Chbamon, Komponspeu.  
Kingdom of Cambodia  
電話: (855) 12-519-114 (855) 12-946-483

【ホームページ】 AAC21

## 会報

### 幸福を、平和を、豊かな心を、 カンボジアの友と分かち合おう



# アンコールワット

発行日 2012年（平成24年）1月1日

第62号

（年6回発行）  
（奇数月発行）

## カンボジアで小学校対抗サッカー大会を開催 サッカーを通じて支援と交流の輪を広げよう

サッカーが大好きなカンボジアの子どもたちにも、サッカーを通じて将来に夢と希望をもってもらうと、本会では年に一〜二回、小学校を対象にしたサッカー大会を開催している。十一月十九日、夢ホーム周辺にある八つの小学校生徒が集い、第四回サッカー大会（ドリムカップ）を、夢ホームの近くにある「チャイチョップ中学校」の校庭で開催、出場選手や応援部隊など、約五百人が集まった。



優勝チーム、審判団と記念撮影



この日のために毎日練習したという

本会及び「21世紀のカンボジアを支援する会」を支援する日立市民の「会」（田尻耕造代表世話人）、「日立市サッカー少年団」が大会を共催した。試合に先立ち行なわれた開会式には、日本大使館から百瀬専門調査員が、地元から、リー・ソン国会議員、県教育局長らが出席してくださいました。試合は八校のトーナメント方式で午前四試合、午後四試合が行なわれ、優勝チームに贈られた盾を始め、「21世紀のカンボジアを支援する日立市民の会」が提供してくれたサッカーボール、シューズなど沢山の賞品を、参加したすべてのチームの子どもたちに差し上げた。

## 日本人としての誇りを胸に

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

六十七年前、日本は戦争に負けた。主要な都市は焦土と化し、広島・長崎には原爆が落とされた。あたり一面、焼け野原になってしまった。終戦後、先輩の皆さんの努力が実って日本は復興し、世界が驚く高度成長を成し遂げた。最近では中国に抜かれたとはいえ世界第三位の経済大国であり、世界は日本を依然として豊かな国とみている。

反面、精神的には大きな遅れをとった。敗戦を境に、戦前まで培われてきた日本人の精神性は戦争を招いた悪玉として肅正され、戦後は欧米の個人主義・自由主義が主流となった。最近ではこれに成果主義が加わり、うかうかしているというリストラの憂き目にあうので、社会全体に閉

塞感漂う、不安定な世の中になってしまった。自分のことで精一杯、他人の心など心配する暇もなければ、心の余裕もなくなってしまった。いわゆる第二の敗戦である。ところが昨年三月に発生した東



助け合いの精神がカンボジアで花開く

中が感動した。日本人って、意外に素晴らしい民族なんだと再認識した。日本人であることの誇りを胸に、今日も前を向いて歩いて行こう。

人も多かったようだ。戦後生まれの私には、戦前まであった日本人の精神性について、リアルタイムでの経験はないが、DNAは嘘はつかない。お互いに助け合おう、他者を気遣う、他人に迷惑をかけない、困っている人に手を貸す、物を大切に、社会秩序を守るといった精神は、日本人が数千年かけて培った最高の財産なのだ。私がカンボジアへの支援活動を始めたのも、多くの皆さんが支援活動に参加して下さっているのも、私たちの心に受け継がれている、助け合いの精神によるものだ。

### 第10回定期総会のご案内

本会は今年創立13年目、NPO法人になって10年目を迎えます。「継続は力なり」と云いますが、信念を持って続けることは大事なことです。さて、定期総会を下記の要領で開催いたしますので、どうぞお集まりください。

【日時】2月11日（土）午後3時～4時半

【会場】練馬区立「練馬文化センター・3階会議室」（西武池袋線・地下鉄有楽町線・地下鉄副都心線・地下鉄大江戸線の練馬駅下車、北口駅前にあります）

【議題】・2011年事業報告・収支決算審議の件  
・2012年事業計画・収支予算審議の件  
・現地の活動報告

\*出席して下さる方は資料準備の都合上、2月8日までに事務局にご連絡ください。



訪問先の小学校で挨拶する佃井副理事長

小学校を訪問して井戸贈呈式、学用品の配布、生徒と交流、里子の家庭訪問、夢ホームを訪問して子どもたちと交流、参加者の一部はアンコールワット観光などを楽しんだ。次回、第二十九回の旅は三月七日〜十三日に実施する予定、参加締切日は一月十日。

「第十九回カンボジアふれあいの旅」が十一月十五日〜二十一日に行われ、二十二人の会員さんが全日程に参加してくれた。このほか、五人の会員さんが一部の日程に参加してくれた。初参加の会員さんは八人だった。

## カンボジアの子どもたちをサポートしてください

### クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、大多数の人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。思えば67年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子ども達を支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【年会費】：子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入（毎月2500円×12ヵ月）のどちらも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。

【会費の用途】：学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金などに使われます。このほか、現地スタッフの給料、ガソリン代、事務所家賃など現地でかかる経費、通信費、印刷費など東京の本部でかかる経費として使われます。

【サポート期間】：最低1年間単位ですが、少なくとも子どもが学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。

【里子との交流】：里子からは年2回、近況を報せる手紙（日本語に翻訳）と写真が届きます。里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。現地で暮らす里子に会いにいくための旅行も年3回実施しております。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、公的資金（税金）は一切いただいておりません。

### 3年前に寄贈した小学校を訪問、昼食をプレゼント



校舎の前でお弁当を食べるアングロン小学校の生徒たち

十一月十七日、ふれあいの旅に参加した加藤和代さん（静岡県沼津市・里親会員）が三年前に校舎と遊具を寄贈したアングロン小学校を訪問、生徒たちの昼食にと、お弁当とペットボトルの水をプレゼントした。生徒たちはさっそく校舎の前で食事したが、一部の生徒は家族と一緒に食べるため、家に持ち帰って食べた。

11月も4校に井戸を寄贈することができ、カンボジアの子どもたちは大喜びしている。特に「カンボジアふれあいの旅」の中で、井戸を寄贈した鈴木千雄さんと佐々木二千六・テルさん夫妻が贈呈式に出席し、子どもたちと共に井戸の完成を祝うことができた。

また、鈴木さん寄贈の大型井戸は、生徒数の多い小学校を選んで設置した。蛇口が8つもあって、足洗い場、倉庫もついている。

1月もカンボジアの小学校に6基の井戸を設置することになっており、通算の設置数は200基になる予定。

引き続き、皆様からのご支援をお待ちしております。



生徒の頭を洗う鈴木千雄さん。洗面完成した井戸の前で記念撮影（左から、佐々木器も鈴木さんが製作して寄贈した

11月に完成した井戸の内訳			
寄贈者名	学校名	学校の所在地	生徒数
① 鈴木千雄様	ブンラーニコムコル小学校	コンボンチャム県プレイチュ郡	1611人
② 佐々木二千六・テル様	チューバック小学校	コンボンチャム県プレイチュ郡	320人
③ 武藤悠加様	トルクボット小学校	コンボンチャム県プレイチュ郡	250人
④ 根谷崎百合子様	オータック小学校	コンボンチャム県プレイチュ郡	315人

※通算の井戸設置数=194基(2011年11月現在)

## 十一月はカンボジアの小学校に四基の井戸を設置

### 五年前に寄贈した「平和小学校」を訪問、学用品をプレゼント



寄贈した校舎の前で（中央が角田さん夫妻）

十一月十八日、ふれあいの旅に参加した角田勲・由美子さん夫妻（東京都練馬区・里親会員）が、二〇〇六年に校舎を寄贈した「平和小学校」（コンボンスピー県コンボセイ郡、生徒数三百三十人）を訪問、生徒たちと久しぶりに対面した。お土産に生徒全員に学用品とサッカーボールを五個寄贈した。校舎と共に寄贈した井戸（三林けい子さん寄贈）も、地域住民や生徒たちが沢山使い、大いに役立っているという。角田さん夫妻は、子どもたちの成長の早さに驚いていた。

石川桂さんによる校舎建設、順調にはかどる  
愛知県安城市の石川桂さん（里親会員）の資金提供による校舎建設は順調に進んでいる。九月十四日に着工し、すでに七十%が終了した。場所は、プノンペンから国道六号線で北へ約一時間半のコンボンチャム県、トロバントム小学校。三月には開校式が行なわれる予定。



70%終了した校舎建設

### 孤児院「平和センター」を訪問



左から菊池さん、ソン・ソルベアさん、根岸理事長、前列左が鈴木さん

十一月二十二日、ふれあいの旅の一部に参加し、サッカー大会を主催した「21世紀のカンボジア支援する日立市民の会」の菊池和雄さんと鈴木達さんが、孤児院「平和センター」（カンダール県・子ども数六十人）を訪問した。根岸理事長が案内した。また、同施設の庭にある、藤田幸久財務副大臣のご息のお墓を参拝した。ご息は十五才の時、カンボジアで交通事故に遭い、亡くなられたそう。平和センターのお土産として、サッカーボールとバレーボールを各一個ずつ寄贈した。園長のソン・ソルベアさんが迎えてくれた。

### 児童養護施設《夢ホーム》日記

#### お米をたくさんいただきました

9月に続いて、11月も多くの方からお米をいただいた。感謝！！寄贈して下さった方々（順不同・敬称略させていただきます）  
・若林道子・早出昭雄  
・中川志津子・及川英博、弘子・黒瀬幸子  
・今紀子・横田百子  
・村田千津子  
・平古場正行  
・佐々木二千六、テル・園田健次、美代子  
・匿名（11月30日まで）



皆さんありがとうございました

#### ふれあいの旅参加者が訪問

11月20日、ふれあいの旅参加者の皆さんが夢ホームを訪問、楽しい交流のときを持った。夢ホームに滞在中の三林けい子さんの計らいで、クリスマスパーティを開いたり、子どもたちが歌を披露したり、参加者が楽器演奏して楽しんだ。



楽しい昼食会でした

#### 自転車 10台寄贈

ある会員さんが匿名で、子どもたちに自転車を10台寄贈して下さった。専用に乗れるとあって、もらった子は喜んでいました。



小さい子の自転車もあります



指輪作りに挑戦

日本宝飾クラフト学院（本校は東京都台東区）の専任講師を務め、自宅に工房を持つ榎戸徹彦さん（横浜市・里親会員）が、夢ホームの中に工房を作り、カンボジアの若者や女性を対象に、製造によるアクセサリー作りの技術を指導している。十一月二十一日、二十四日、第四回目の講習会が開かれ、七人が受講した。また、二十五日、二十七日、講習の環境でシエムリアップのアンコールワットなどの遺蹟群を見学した。今回は、遺蹟にあるカンボジア伝統模様を使った指輪作りに挑戦した。次回の講習会は、一月九日、十四日を予定している。

### 第四回「製造によるアクセサリー作り技術講習会（夢ホーム）」



日本の地鎮祭にあたるカンボジア伝統の着工式

神戸ユネスコ協会（加藤義雄会長・神戸市中央区楠木町）の資金提供により、コンボンチュナン県・ストックアイトロミヤ小学校で校舎の建設が始まった。十一月二十二日、地元村民や生徒たちが集い、着工式を行なった。式には加藤会長に代わり根岸理事長が出席した。校舎は平屋で五教室、机、椅子、黒板などの備品も用意され、別棟でトイレも作られる。工期は六ヶ月、来年の五月に完成の予定。  
校舎を建てることになった同小学校は、カンボジアの首都プノンペンから国道五号線を車で約二時間半の所にある。生徒数は一年生から四年生まで百二十九人、校舎が足りないため、五年生・六年生は別の小学校で学んでいるという。今は、二十五年前に村が作った木造校舎が一棟あるのみ。生徒や村民は校舎建設の着工を心から歓迎し、喜んでいました。

### 神戸ユネスコ協会の資金提供で小学校の校舎建設始まる

■洪水はまだ引かず  
タイほどではないが、カンボジアもメコン川やトンレサップ川が氾濫して洪水が発生、一部地域の田んぼや畑が水をかぶった。稲刈り直前であっただけに被害は深刻だ。校舎も半分近く水に浸かって授業ができなかったそう。

■コンボンチュナン県は陶器品の産地



### クメール教育里親基金活動レポート

「クメール教育里親基金」では、十一月末日現在で四百三人の子どもたちを教育支援している。

十一月十七日、里親会員を含むカンボジアふれあいの旅参加者の皆さんが、二つのグループに分かれ、教育支援する里子の家庭訪問をした。初めて里子に会った里親さんは感激し、久しぶりに再会した里親さんは、子どもの成長の早さに驚いていた。

経済成長率が六%と急成長しているカンボジアだが、地方の暮らしは十年前とほとんど変わらず、子どもたちは家計を助けるため学業半ばで小・中学校を退学し、働きに出ることが珍しくなくなっている。私たちの教育支援活動は、大きな流れの中ではささやかな抵抗かもしれないが、子どもたちは日本の教育里親さんからの支援で学校に通えることを心から喜び、感謝している。



里子に再会した上山陽子さん（左）

### 里子家庭訪問記録

名前: コップ・チャントリー	学校名: ノラロム小学校	
年齢: 7歳	学年: 小学校の3年生	性別: 女の子
住んでいる場所: コンボンスプー県 コンピセイ郡 アンボベッルコミン ソックモック村		
所要時間(徒歩又は自転車): 自転車: 10分		
好きな教科: 国語(特に、小説を読むのが好きです。)		
苦手な教科: 数学(特に、分数の計算を解くのが苦手です。)		
担任から一言: 成績: B, 道徳: A, 健康: A, 学校活動: B, 出席: B		
家庭状況: 両親と暮らしています。兄弟は3人です。兄0人、姉0人、弟2人、妹0人、コップ・チャントリーちゃんは第1子です。		

一日の過ごし方: 毎朝5時半頃起きます。家の清掃をしたり、お皿を洗ったりします。それから、水を浴び、朝食を摂り、午前7時から学校へ通います。12時20分頃家へ戻り、昼食を摂ってから、弟を面倒を見ます。夕食は6時半頃摂り、先生から出された宿題をします。9時頃寝ます。

好きな遊び: ゴムとびをするのが好きです。  
好きな食べ物: ミルクフルーツ、バナナ、お菓子、パン  
将来の夢: 医者になりたい。



兄弟と一緒に学校へ行く写真(左がチャントリーちゃん)

備考: コップ・チャントリーちゃんは放課後、両親の代わりに弟を面倒見しています。学校に行く時も一緒に行きます。お母さんとお父さんは色々なところから野菜を買って、ブンベンでの市場に売りに行って夜まで帰ります。彼女は毎日、頑張って勉強して、今年の勉強結果は4番でした。里親さんが援助した支援金は学校の服、文具などを買います。残り分はお小遣いに使っています。下の兄弟に上げてもやります。「日本にいらしゃる里親さんの教育資金のおかげ私の娘が勉強しています。心から本当に感謝します。私の子は毎日頑張って勉強しています。今年が良い結果が出てうれしいです。」とお母さんは言いました。  
2011年11月16日  
担当者: ニョウ・ビン

長い内戦が終わったのは一九九一年十月二十三日。あれから二十一年の歳月が流れた。  
協定の締結を記念し、カンボジア大使館(東京・赤坂)では「21世紀のカンボジアを支援する日立市民の会」が提供した、さくらの植樹が行なわれ、本会から根岸理事長が出席した。カンボジア支援に尽くされている藤田幸久財務副大臣も、多忙のなか、かけつけてくれた。二、三年後には立派な花が咲くことだろう。



中央が藤田財務副大臣(その左がホー・モニロットカンボジア大使)

### 静岡県写真展で遠藤啓さん作品が最優秀賞

2011年度第56回「静岡県写真展」(グランシップ静岡)が10月に開催、遠藤啓さん(静岡県伊豆の国市)の作品「トレンサップに生きる」が組み写真の部で最優秀賞に輝いた。また、カラー写真の部で、自動小銃を携えた兵士におののく表情をとらえた「不安」も特選を受賞した。

遠藤さんは、かれこれ10年にわたり、カンボジアで写真を撮り続けている。本会が使用する写真の多くが遠藤さんの作品だ。おめでとう!



特選に輝いた「不安」

### 「グローバルフェスタ2011」(日比谷公園)に十回目の展

十月一日〜二日「グローバルフェスタ2011」が東京・千代田区の日比谷公園で行なわれ、今年で十回目の開催となった。今年が記念すべき十度目の開催だった。「國學院大學国際協力サークル」の皆さんも初出展した。当日は多数のボランティアさんが手伝ってくれ、スカーフ、バッグなどのカンボジア製品がたくさん売れた。幸い天候に恵まれ、二日間約十万人が会場を訪れた。



天候に恵まれたグローバルフェスタ

### 第34回「練馬まつり」に出展



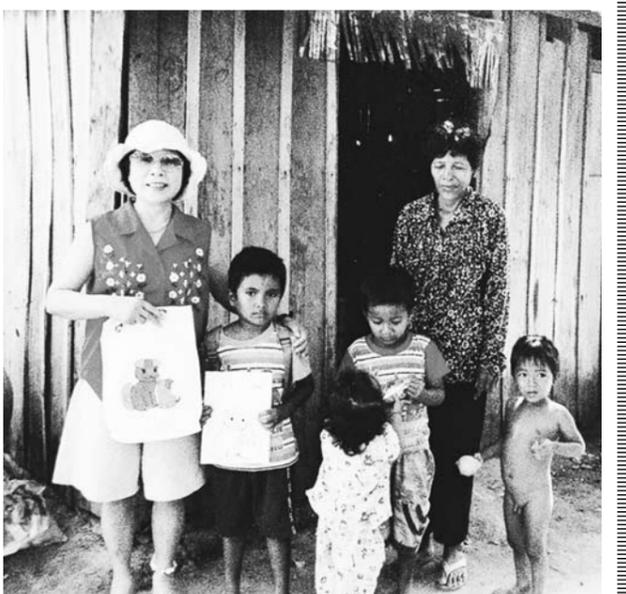
十月十六日、本会事務局のある東京・練馬区内で第三十四回「練馬まつり」が開催、本会も出展した。開催前日に突風と大雨に見舞われ、開催が危ぶまれたが、当日は快晴になり、開催することができた。スカーフ、テールブルクロスなどのカンボジア製品を売ったり、会報を配布して、協力を呼び掛けた。

### 投稿 代理里親大忙し

友人のくまちゃんが里親になりました。何か心に残るプレゼントはないかと二人で考えました。そして、「こんちゃん作、くまちゃん絵で、「ぬり絵絵本」を作りました。「小犬のハッピーちゃん」の物語です。手作りの素朴な絵本です。写真の中で里子ちゃんが持っているのが、それです。里親のくまちゃんが来る次回までに、色をぬっておくように話しておきました。どんな絵本に仕上がるか、小さな画伯に期待しています。私が手に持っている白い手提げ袋は、東北の津波で被災した酒造会社の酒粕し

### 今 紀子

ぼり袋を利用して作ったものです。この手提げ袋に絵本とクレヨンを入れてプレゼントしました。日本語と英語とクメール語で、簡単な文章をつけました。今回は、クメール語のチェックを受ける必要から五冊だけ用意しました。次回からは、たくさん用意して豆画伯を増やしていけたらいいなあと思っています。今回もみのり多い里子訪問ができました。ありがとうございました。(東京都・会員)



### 鈴木千雄さんの協力により「名古屋国際センター」で写真展



写真の説明をする鈴木千雄さん

### 「名古屋国際センター」で会員懇談会を開催

10月10日、名古屋国際センターの写真展会場において、愛知県にお住まいの会員さんを対象に懇談会を開催、6人が出席してくれた。東京本部から根岸理事長が出席、現地の活動状況などについて詳しく説明した。

写真展の見学を兼ねて来てくださった

### 投稿

#### 夢ホーム滞在記

三林けい子

十一月十二日から二十日まで夢ホームにて子どもたちと一緒に過ごしてきました。五月に完成した男子棟、事務所棟がとも立派にできており園内は見違えるほどでした。

今回の旅のテーマは「クリスマス」です。

園内の大きな木にクリスマスツリーの飾りつけをし、みんなが寝た後に、部屋にプレゼントを置きました。朝起きたらみんな大騒ぎ、早速プレゼントのカバンを背負い通学していました。日本の支援者のおかげで大成功でした。感謝いたします。また、夜は輝くツリーとロウソクの光でクリスマス会を行ったり、ふれあいの旅のみなさんへジングルベルの歌をプレゼントしました。滞在中はずっとクリスマス気分で過ごしていました。



サンタクロースはだれかな？

下駄箱が設置されました。驚いたことに、子どもたちは靴下をはき、靴を履いて学校へ行きました。二年前の十一月、みんな市場へ行き、初めて靴を買ってからの日が来るのを待っていました。とても感動しました。

スカイプ日本語学習会もスタートしてから丁度一年がたちました。子どもたちとは毎晩会っているようなものですが、滞在期間はいつも厳しく発音練習をしました。また、中学三年生は「漢字」の学習を始めました。「書き順」についてきちんと習得してほしいと願っています。

第二回ニツタク夢ホーム卓球大会を開催、優勝はたつぐんで大会一連覇でした。表彰式はサンタクロースから優勝カップをもらいました。熱烈な試合はとても素晴らしいです。

今回の滞在中も盛りだくさんで充実した毎日でした。成長している子どもたちの将来の夢が大きく膨らんでいくことを願っています。

### 投稿

#### 夢ホームから歌手誕生が楽しみ

園田美代子

「第十九回カンボジアふれあいの旅」で一緒に皆さんに大変お世話になりました。今回はちょっとしたハブニングがありましたが、感動もたくさんあり、日本に帰ってまたすぐに行きたくなる不思議な国です。

「夢ホーム」へ三人（山本さん、佐藤さん、私）で日帰り体験しました。

三林けい子さんの「あいうえお教室」「卓球大会」に参加しました。三林さんの指導が良く、子どもたちも熱心でした。さすが！三林さん！

鈴木千雄さんの職業訓練室を拝見しました。郵便ポストがいくつもありました。鈴木さんのお話によると、カンボジ

### 靴磨き屋さん



靴を磨く子ども

通訳のカンボジア人といろいろ話をしているときに「靴磨き屋さん」が回ってきた。「どうですか？」と聞いたので、値段を聞いてみた。外国人は二千リエル、カンボジア人は千リエルだそう。磨いても良かった。日本の家庭で磨きやり方だった。「この靴、十年履いている」と言ったら、びっくりしていた。日本製はやっばり良いね、と感心していた。多分、私個人がお願いしたら一ドル（四千リエル）と言っただろう。（理事・関西支部長、中野勝）

\*トウツサナーとは観察するという意味です。



小学校でノートとボールペンを配りました

わが家も決して裕福ではないので、さやかですが出来る範囲で、身の丈に合ったボランティア、支援を末長くしていきたいと思えます。

頑張り、カンボジア王国！日本も頑張るぞ！（群馬県太田市・里親会員）

## カンボジアミニニュース

現地で行っている新聞や情報誌から、カンボジアに関するニュースを紹介します。

### 洪水で死者六十二人、二万世帯が浸水

カンボジアの広い範囲で洪水が発生。カンボジア政府によると、犠牲者は十州で六十二人にのぼった。また、五千世帯余りが避難を余儀なくされ、二万世帯が浸水したという。

### 水

質源省が二〇一一年度に建設、修復を進めてきた二十二カ所のかんがい施設で、建設作業が終了した。これにより九万ヘクタール余りの農地が恩恵を受けることになる。

### 水

その農地のうち、六万七千七百七ヘクタールが雨季の水田、二万四千九百九ヘクタールが乾季の水田、五千九百三十九ヘクタールが畑で、全国十七州・市の三万四千二百八十二世帯がかんがい施設を利用する。

### 「イオン」今年にもプノンペンにモール

イオンが今年度の着工を目指し、首都プノンペンでショッピングモール開発を進めていることを明らかにした。

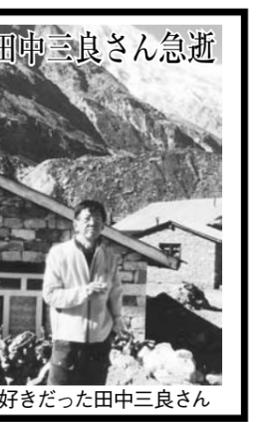
### ホ

使は都内で講演し、流通最大手のイオンが今年度の着工を目指し、首都プノンペンでショッピングモール開発を進めていることを明らかにした。

### ア

わが家も決して裕福ではないので、さやかですが出来る範囲で、身の丈に合ったボランティア、支援を末長くしていきたいと思えます。

太陽光発電の普及にはカンボジア政府も注目し、世界銀行の支援を受け、全国に二万二千個の家庭用ソーラーシステムを設置する計画を打ち出した。



山が好きだった田中三良さん

事務局のパソコン担当、田中三良さん急逝  
本会事務局にて週2回パート勤務し、パソコン関連の責任者を務めた、田中三良さんが10月19日、心筋梗塞で急逝した。登山が趣味で、最期も山の頂上だった。享年69歳、早すぎる突然の死になすすべく、ただただ冥福を祈るだけだった。安らかに…。

書き損じハガキ・未使用切手・商品券をお送りくださいませ  
本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。  
送り先：〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-701 本会事務局へ

事務局便り ■新年明けましておめでとうございます。昨年は東日本大震災、原発事故、台風被害などの災害が多かった年でした。今年こそ良い年になりますように。

■現地の夢ホームでは日本語学習に熱が入ります。子どもたちは、新潟の三林けい子さんがスカイプを駆使して毎晩学習。日本語のできないスタッフも最近勤務を始めたピン君の指導のもと、熱心に学んでいます。

- 1月～2月の予定
- 会報「アンコールワット」1月1日付第62号発行
- カンボジアミニツアー（1月5日～16日）
- 第37回理事会（2月11日・13時半～14時半、練馬文化センター会議室）
- 第10回定期総会（2月11日・15時～16時半、練馬文化センター会議室）
- 写真展「カンボジアの子どもたち」（2月22日～27日、亀戸文化センター）

**活動に参加しませんか**

ボランティアとして

学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年三回実施しています。

クメール教育里親基金

農村の貧しい子ども達が学校に行けるようにと教育資金をサポートして下さる里親会員を募集しています。サポート金額は年間三万円（分割可）です。

会員として

- ・個人会員（年額一口五千元）
- ・法人会員（年額一口二万円）
- ・里親会員（年額三万円）

会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込み、現金書留で、郵便振替口座名

21世紀のカンボジアを支援する会

（口座番号）

00130-0-160916

※銀行振込をご希望の方は事務局へご一報ください。

※郵貯銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご一報ください。